



# その「物語」の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.145  
a taste of Ya'ssy

田中 康夫



Ya'ssy

たなかやすお ●'56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。「文藝」(河出書房新社)2013年冬季号から17年ぶりに小説の連載を開始。[公式ブログ]http://www.nippon-dream.com/

「食在廣州」の地を訪れたのは今から9年前の秋でした。  
『開店休業状態』が続いていた信州まつもと空港へ、チャーター便を4便も運航の香港ドラゴン航空でCEOに感謝状を手渡し、続いて広州が本拠地の中国南方航空で当時の総裁と、飛行計画の具体的な検討を行いました。

で、その夜に訪れた、珍魚や珍獸を調理するのが売り物な料理店の玄関脇には大きな檻が。流石に白鼻心や浣熊、黒鼠を頼む勇気は持ち合わせず、大山椒魚のしゃぶしゃぶ

しゃぶ、スープ、血を垂れに用いた炒飯でお茶を濁しました。  
中国は唾棄すべき存在、と口角泡を飛ばす御仁が居ます。僕とて首を傾げる点は多々。が、同僚・上司、夫婦・恋人、更にはDNAを受け継ぐ親子とて、100%の理解など有り得ません。中韓など理解不能と熱り立つ一方で、唯々諾々と欧米ならば受け入れるとしたら、呵々、それこそは彼らが嘲弄する自虐史觀そのものです。

「日経ビジネス」が暫し前に掲載したマハティール・ビン・モハマ

ド氏の長文インタビューから截録します。御存知、22年間に亘るマレーシア首相在任中、日本の経済成長に学べと「ルックイースト政策」を推進した人物。

「この地域に必要なのは平和です。通商関係です。」「ドイツとフランスが友人となれたのに何故、中国と日本は出来ないのでしょうか。」「我々は『中国はそこにある』といふ事実を受け入れなければなりません。中国の台頭と共に、私たちも中国と生きていかなくてはならぬ事実です」と。

六本木と銀座でも展開の「黒猫」は、端倪すべからざる中国の夜は、端倪すべからざる中国の舌の炒め。中原や華北から南下した少數民族の客家は言わばもがな、太平天国の洪秀全、中国国民党の孫文、中国共産党の鄧小平、更には台灣の李登輝の名氏を輩出した中国版アルメニア人。

郷土惣菜料理としての客家料理を、豊富な中国酒と共に堪能出来る必訪の逸軒です。

## 客家料理を通じて垣間見る端倪すべからざる中国の深奥

### 今週の逸品



### 客家風鴨舌の炒め 980円

天然蛙酉油蒸し発酵唐辛子掛け2100円、客家豆腐発酵醤元鉢掛け100円も推奨。メは自家製中国ハム調味め土鍋御飯1100円。是非とも挑戦すべきは加熱臭+歯槽膿漏の悪臭漂う麻辣臭豆腐煮込み980円。無論、バクチ

一サラダ880円といった無難で美味しい逸品も。豊富な黄酒・白酒を900円で3種利き酒可能。全面喫煙可なの唯一の難点。六本木店は明け方まで営業で同業者多し。マハティール発言は上記HPにURL記載。

[黒猫] 東京都港区赤坂3-9-8 極原ビル3F ☎ 03-3582-3536 営業~金11:30~14:00(L013:30), 18:00~24:00(L023:00), 土18:00~23:00(L022:00) 日祝定休 http://kuronekoyoru.com/

illustration by Hajime Anzai

その意味でも7月上旬に北京で

開催の「米中戦略・経済対話」開幕式で習近平国家主席が、米中投資協定=B-I-T早期妥結発効への期待を表明したにも拘らず、任期残り2年半を切ったバラク・オバマ政権側が、そのシグナルを見逃したのは一大痛恨事でした。

恐らくと僕は睨みます。中米国は中国に於ける保険、金融、通信等への投資拡大の「利と理」を米国は獲得可能なのです。

B-I-Tは、自國に進出の相手国企業を自國企業と同様に扱う、謂わばTPP以上に過激な協定。詰まりは中国に於ける保険、金融、通信等への投資拡大の「利と理」を米国は獲得可能なのです。

B-I-Tは、自國に進出の相手国企業を自國企業と同様に扱う、謂わばTPP以上に過激な協定。詰まりは中国に於ける保険、金融、通信等への投資拡大の「利と理」を米国は獲得可能なのです。